

平成 27 年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	鹿児島県教育委員会
-------	-----------

I 概要

1 モデル地域の概要

- ① モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
○	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

- ② モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
鹿児島県	特別支援学校	知的障害	かごしまけんりつかごしまこうとうとくべつしえんがっこう 鹿児島県立鹿児島高等特別支援学校

2 研究課題

特別支援学校高等部生徒の職業自立に向けた能力の向上と、特別支援学校のセンター的機能の活用や労働・福祉等機関との連携によるキャリア教育・就労支援の充実に関する研究

3 研究の概要

本県の特別支援学校高等部卒業生の就職率は直近で25%であり、全国平均を下回り、その早急な対応が必要である。本県の特別支援学校で学ぶ生徒の就職率の向上を図るためには、生徒の就労意欲を高めるとともに、企業とのネットワークを強化する必要がある。そこで、モデル校となる特別支援学校に、就労支援コーディネーターを配置し、企業の障害者雇用に係る理解啓発を図りながら、1・2年生の現場実習先や3年生の就労先開拓の業務を行うことにより、高い就職率の実現を目指すとともに、他の特別支援学校にも情報を提供し、本県特別支援学校全体の職業教育の充実に資する。また、特別支援学校技能検定を特別支援学校及び企業関係者等と連携して実施し、生徒の職業自立に向けた意欲と能力の向上を図るとともに、企業関係者等の特別支援学校生徒への理解を深め、雇用促進につなげる。さらに、各学校で企業関係者等を招いた就労ネットワーク会議を開催し、各地域の企業等のニーズを把握したり、キャリア教育の充実を図ったりするとともに、企業等とのネットワークの拡充を図る。

4 研究の成果

（1）就労支援コーディネーターについて

モデル校となる鹿児島高等特別支援学校に、就労支援コーディネーターを配置し、他の特別支援学校へ産業現場等における実習先及び就労先等の職場開拓に係る情報及び資料等の提供を行うことで、教員の進路指導に係るスキルと生徒・保護者の就

職への意欲の向上を図ることができた。また、企業関係者等の特別支援学校生徒への理解が深まり、雇用促進につなげることができた。（訪問事業所数は287事業所、職場情報個数は310件）さらに、県立高等学校に配置しているキャリアカウンセラーや、各地区の公共職業安定所の高卒ジョブサポーターと連携し、支援の必要な生徒に関する情報提供や進路指導支援を行うことにより、高等学校でのキャリア教育等の充実を推進することができた。（連絡会等への参加は8回）

（2）特別支援学校技能検定について

特別支援学校の高等部の生徒を対象とした職業技能の検定を特別支援学校及び企業関係者等と連携して実施することで、生徒が自己の技能習得状況を知るとともに、級位の認定を行うことで、生徒の技能を客観的に証明することができた。（1月に清掃部門の技能検定を実施。特別支援学校7校から高等部生徒28人が受検。）また、職業自立に向けた意欲や能力の向上を図るとともに、就職率の向上に寄与することができた。そして、技能検定実施に必要な検定評価表や技能検定テキストを作成・配布することで、技能検定における各特別支援学校の指導の充実や、小・中学部段階からのキャリア教育の推進を図ることができた。

（3）特別支援学校就労ネットワーク会議等について

各特別支援学校で、企業関係者等を招いた就労ネットワーク会議を開催し、地域の企業のニーズを把握するとともに、就労に関する情報を小・中学部段階から共有することで、企業等とのネットワークの構築と小・中学部段階からの一貫したキャリア教育・職業教育の充実を図ることができた。各校は、地域の障害者雇用に取り組む企業関係者等を招き、各校の就労支援を推進する就労ネットワーク会議と、企業関係者等による職員や保護者・児童生徒対象の研修会を、それぞれ年1回以上行い、就労ネットワーク会議が15回、研修会が21回、合わせて36回実施された。外部関係者も延べ97人が招へいされた。

5 課題と今後の方策

（1）就労支援コーディネーターについて

今年度は、常時、広範囲に渡り産業現場等における実習先及び就労先等の職場開拓をすることができ、生徒一人一人のニーズに対応した就労に関する情報や資料等を得ることができた。来年度もこれまで以上に、他の特別支援学校の進路指導担当者、高等学校に配置されているキャリアカウンセラー等と連携をとり、幅広く情報の収集や提供に努めたい。特に、まだ訪問できていない事業所の職場開拓や、過去に訪問した事業所を再訪することで、特別支援学校の近況を報告し、事業所の現況を伺いながら、更に連携を深めたい。

（2）特別支援学校技能検定について

今回の特別支援学校技能検定は、特別支援学校7校から高等部生徒28人の受検であったが、県内の特別支援学校から、より多くの高等部生徒が受検できる機会を増やすために、今後は、会場や検定回数の検討を行いたい。また、清掃部門の技能検定に限らず、様々な障害種の生徒が参加できる技能検定の部門を新たに設定する必要がある。

本年度、実施した清掃部門は、鹿児島高等特別支援学校以外の学校では、作業学習の指導内容ではなく、指導は、放課後等を活用して実施していた。今後は、技能検定に向けた取組や、その要素を各特別支援学校で実施している作業学習に取り入れ、教育課程に位置付けるなど、各特別支援学校の学習活動につなげる必要性があると考えている。

(3) 特別支援学校就労ネットワーク会議等について

今年度は、計 36 回の就労ネットワーク会議や研修会が実施され、各特別支援学校で企業等とのネットワークの拡充と職業教育・キャリア教育の充実が図られた。しかし、会議や研修会に企業関係者等を招き、活用する状況は、学校の位置する地域間で大きな差が生じていた。

今後、特別支援学校の校長や教頭、進路指導担当者が集まる機会において、就労ネットワーク会議や研修会の状況・内容を紹介し、各校の更なる就労ネットワーク会議等の充実を図るとともに、各地域の企業等への理解・啓発を進めることで、キャリア教育の充実と特別支援学校高等部生徒の就職率の向上につなげたい。